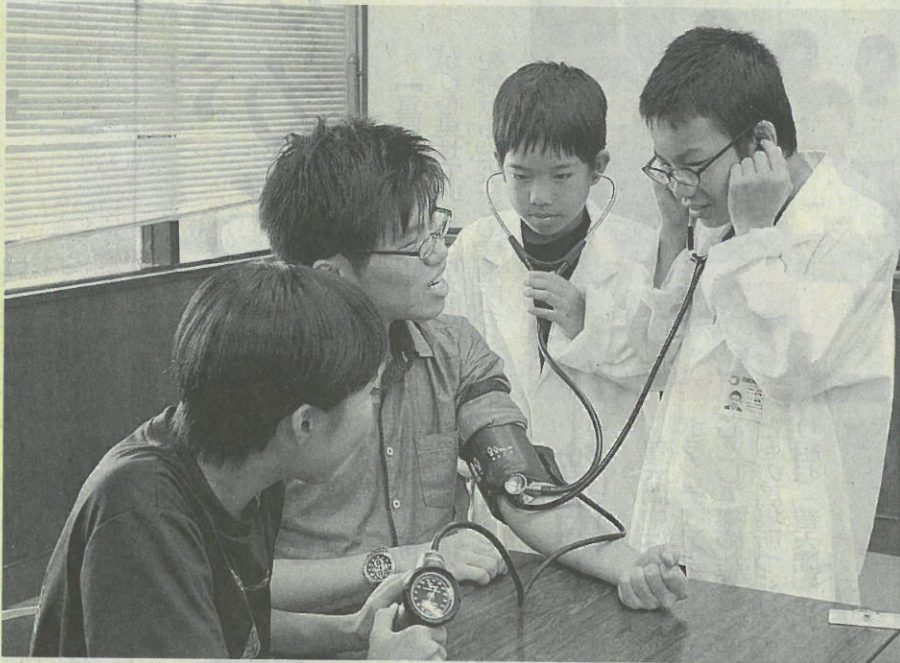


伊江の児童生徒 琉大医学部生と交流

「気分はお医者さん」

【伊江】琉球大学医学部学生と北部地域の医療者や地域の児童・生徒・住民との関係強化を目的に、北部広域市町村圏事務組合が主催する「やんばる医療塾・やんばる寺小屋」が8月27日、伊江村農村環境改善センターで開かれた。村内の小・中学生が参加し、医療器具体験などを通して医学学生と交流した。2016年度北部地域の安全・安心な定住条件整備事業の一環。

やんばる医療塾で診察体験



琉球大学地域医療研究会の企画で、医学部の與西涼さん、照屋勝さん、平安座啓さん、戸崎沙彩さん、福山芽祝さんの5人が講師を務め、NPO法人HICO（北部地域ITまちづくり協働機構）が協力した。

参加者は白衣を身につけて、気分はお医者さん。医学生が患者役になり、腕に聴診器を当てて血圧を測定したり、打腱器（診察用のハンマー）を使って手足の腱反射の反応を見たりと、医療器具を使う体験をした。苦手な教科の勉強法やテスト勉強の仕方、スケジュールの立て方など、学生の経験談を交えながら交流した。

白衣で血圧測定を体験する参加者 8月27日、伊江村農村環境改善センター

参加者の一人、医師を目指している大城心君（6年）は「白衣を着て、夢に一步近づけた感じがして、テンションが上がった」と興奮気味だった。同研究会の與西部長は「北部の離島や北部地区出身の琉大医学生が誕生したらうれしい」と話した。

会では伊江村立診療所の阿部好弘所長が離島医療をテーマに、村診療所の機能と役割などについて講話した。

（中川廣江通信員）